

2026年3月15日午前10時30分  
 受難節第4主日 主日礼拝  
 司会 深町 穰  
 奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)  
 前奏  
 招きのことば ヘブライ 2:17-18  
 讚美歌 311(1-3)「血しおしたたる」 一同  
 交読詩編 27:7-14(P.32/28)

祈り 司会者  
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫  
 秩父教会 北本教会  
 (主の祈り)

讚美歌 285「高き山の上」 一同

聖書 旧約:出エジプト 24:12-18(P.134)  
 新約:マルコ 9:2-10(P.78)

メッセージ『栄光の山から下りて』  
 祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 311(4-6)「主よ、主のもとに」 一同

献金 一同  
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのタナー 第4主日) 一同

頌栄 20(3)  
 祝禱 川上 盾 牧師  
 後奏  
 報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18  
 イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。

≪3月礼拝当番≫ 徳江由利 田村 啓  
 小林友栄 楠元 桃  
 奈良正太郎 鈴木容子

≪今週の集会・行事≫  
 ◎ 本日 14:00 群馬地区総会(終了後、送別会)  
 ◎ 18日(水) 育心子育て支援センター来訪  
 ◎ 19日(木) 10:30 婦人会例会  
 ◎ 21日(土) 10:00 会堂清掃 C組

≪次週の主日≫  
 ◎主日礼拝 10:30  
 メッセージ『仕える生き方の喜び』  
 聖書:旧約:哀歌 3:18-33(P.1289)  
 新約:マルコ 10:32-45(P.82)  
 讚美歌 294, 303, 534, 94(5)

交読詩編 22:25-32(P.32/28)  
 司会:服部直子 奏楽:金井文子  
 ◎CS午後礼拝 13:00 CSスタッフ会議

≪予告≫  
 ◎ 棕櫚の主日 29日(日) 受難週に入る  
 ◎ 4月定例役員会 3/29(日) 礼拝後  
 ◎ 聖研祈禱会(受難週祈禱会) 4/1(水)10:30&19:30  
 ◎ イースター 4/5(日)  
 CS-8:00 礼拝-10:30 墓前礼拝-13:30

≪報告≫  
 ◎ レント(受難節)の季節を過ごしています  
 イエス・キリストの十字架への歩みを覚え、キャンドルの火を一本ずつ消しながら過ごします。本日が折り返し地点の日曜日となります。罪を悔い改める、克己・修養の時でもあります。この季節に相応しい歩みを求めましょう。  
 ◎ 受難週・イースターのご案内

✦ 受難週祈りの課題(3/29-4/3)・・・3月教会カレンダーに聖書箇所を掲載しています。それぞれで聖書を読み、祈りの時をお過ごし下さい。  
 ✦ イースター(4/5)・・・\*CS礼拝 8:00より。エングハント。\*イースター礼拝 10:30より。聖餐式。  
 \*墓前礼拝 13:30より。納骨式。\*今年もイースター献金にご協力下さい。(献金袋あり)  
 ✦ 墓地清掃についてのおたずね・・・可能ならば前日(4/4)に墓地清掃を行いたいと思います。  
 4日(土)1400より墓地清掃に来れる方は、掲示板の用紙にご記名下さい。ただし人数が少ない場合は、5日墓前礼拝前に行かないです。  
 ◎ 教会総会資料 & 創立140年誌原稿

\*各部門で教会総会資料を提出して下さいの方は、4月12日までお願いします。データの形でいただけるとありがたいです。  
 \*140年誌の各項目・コラムの担当者の方は、原稿執筆をよろしくお願いします。3/31㊦切。

≪消息≫  
 ◎ 寺尾百合子さん・・・無事手術を終えられて、退院されました。今はご自宅に戻られています。神さまのお守りのうちに回復が備えられますよう、お祈り下さい。

≪先週の集会≫

	ジュニア	シニア	ゆかり大人	計
CS朝礼拝	3	2	13	18
	礼拝堂	オンライン		献金
主日礼拝	48	18		
紅雲町集会		11		

《メテジ》『いばらの道』  
 イザヤ 48:1-8, マルコ 8:27-33(3月8日)  
 ▼旧約はイザヤ書 48章、バビロン捕囚後期に活動した第2イザヤの言葉である。半世紀にも及ぶ捕囚の苦しみの中で自暴自棄になったイスラエルの民に、「これから起こる新しいことを語ろう」と呼びかける。それはバビロン捕囚からの解放であった。▼「その解放をもたらす人物こそ、メシア=救い主だ！」として、イザヤは最初、具体的なひとりの人物に期待をかける。それが新興国・ペルシヤの王・キュロス二世である。▼実際、キュロスはバビロニアを倒し、捕囚の民を解放してエルサレムへの帰還を許した。その意味で大恩人・大英雄である。しかし時の経過と共にキュロスもまた一人の人間であり、愛とまことではなく力と損得感情で世を支配しようとする、これまでの権力者と大差ないと思われる。▼そんなイザヤが、神から遣わされるメシアとして最終的に語り伝えたのが、イザヤ書 53章の「苦難の僕」である。人の罪や過ちを自分の身に背負い、赦しを願ひ 軋り成しをする僕...それは「力には力だ！」という対立で生じた世の痛みを、自分の体全体で受けとめ癒そうとする姿である。この僕はいエス・キリストのことを予言していると捉えられるが、私はむしろ、イエスがこの預言に影響を受けたのではないかと考えている。▼「これから起こる新しいこと」、それは初期のイザヤには力と栄光に満ちた英雄による捕囚からの解放を意味していた。しかし晩年には「苦難の僕」によってもたらされる罪の赦しと受けとめられていったのだ。  
 ▼新約は宣教の旅を続けるイエスと弟子たちとの対話。「私のことを人々は何と言っているか」と尋ねるイエスに、弟子たちは「バプテスマのヨハネ」「エリヤ」「預言者」と答える。「ではあなたがたは？」と問われて、意気揚々とペトロは答えた。「あなたこそメシア=キリストです！」▼「どうです!」ドヤ顔で語るペトロが思い浮かぶ。しかしイエスは「そのことを誰にも言うな」と言われ、そして驚くべきことを語り始めた。「人の子は排斥され、殺される...それは弟子たちに対してなされた、最初の受難予告だった。▼弟子たちが求めていたのは、もっと凛々しく栄光に道がメシアであった。それでペトロは「イエスを諷刺始めた」と記される。するとイエスは「退ナサタン! あなたは神のことを思わず人のことを思っている」と言われた。▼力と栄光を求め、対立する者は打ち倒し、そして世を支配しようとする...人間の心にはそんな本能的欲求がある。しかしそれは神の思いではなく、悪魔の思いだとイエスは言われる。そして神の思いにこたえる道として示されたのが、「十字架への道・いばらの道」であった。▼「いばらの道」とはなんだろう? それは隣人のために仕え生きる道。そしてそのためならば自分は敢えてしんどい道を歩む...そんな生き方のことである。▼世の中の多くの人が「力に対しては力!」と思っている時代の中で、力によらない平和を求めるのがイエスに従う道である。それは「いばらの道」かもしれない。しかしその行く末にこそ、神の望まれる世界が来ることをイエスは教えられる。